

OUTLIER

グロースの夜明け

チーム：アウトライヤーズ
田代（リーダー）、池田、石田、長坂

1	イントロダクション	p.3
2	課題設定	p.5
3	スクリーニング概要	p.11
4	第1スクリーニング	p.12
5	第2スクリーニング	p.14
6	第3スクリーニング	p.16
7	ポートフォリオ決定	p.17
8	インタビュー	p.19

彼らは物事を変えてしまう。彼らは人類を前進させる。
彼らをクレイジーな連中だと見る人もいるが、
私たちは彼らを天才だと思う。
自分が世界を変えられると信じるほどにクレイジーな人
たちこそが、
本当に世界を変えていくのだから

スティーブ・ジョブス “Think Different”

順位	企業名	市場区分
1位	エヌビディア	NASDAQ
2位	アップル	NASDAQ
3位	マイクロソフト	NASDAQ
4位	アマゾンドットコム	NASDAQ
5位	アルファベット	NASDAQ
6位	テスラ	NASDAQ
7位	ブロードコム	NASDAQ
8位	メタ	NASDAQ
9位	イーライリリー	NYSE
10位	ウォルマート	NASDAQ

2025年12月時点時価総額



— プライム市場指数
— スタンダード市場指数
— グロース市場指数

本レポートの目的

独自の戦略で既存秩序に挑む異端児企業である
"OUTLIER" を選定すること

3つの観点から理想のグロース企業像を明らかにする



01 グロース市場



02 株主価値



03 マクロ経済

グロース企業は市場コンセプトと乖離している



東証 池田様 インタビューより

- ▶ 上場自体が目的化している企業が多い
- ▶ 上場維持基準の改訂で成長を促す仕掛けを検討

OUTLIERの第1の要件

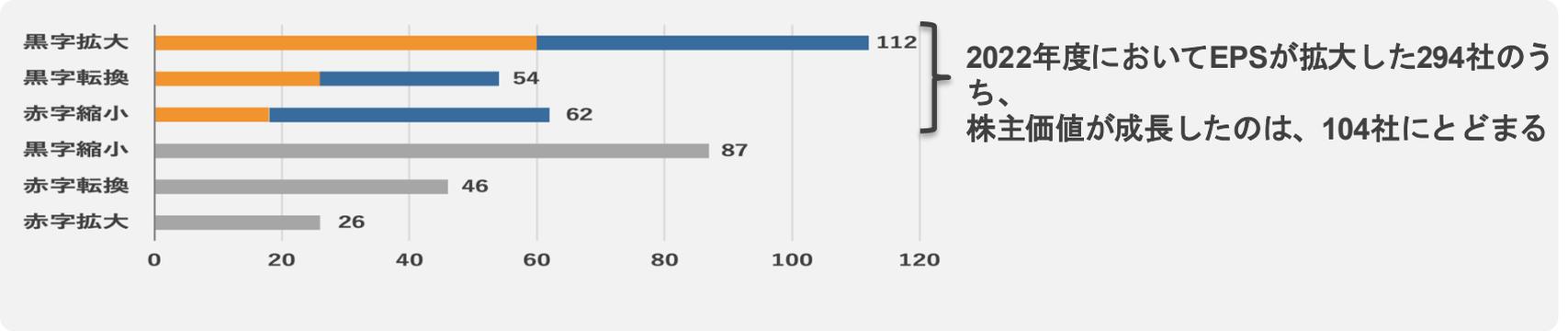
グロース市場に属する企業として本来備えるべき
成長意欲の保有



観点② 株主価値

グロース企業は株主価値を向上させられていない

$$\text{株価} = \text{EPS (一株あたり純利益)} \times \text{PER (株価収益率)}$$



グロース企業が株主価値を高められない原因

EPSの成長が投資家の期待を超えず、PERが低下していくこと



観点② 株主価値

投資家の期待を上回るEPS成長が必要
→ 企業の「異端性」に着目

企業の異端性とは

業界規範から戦略的に逸脱し、独自の経営戦略や
ビジネスモデルを採用している状態

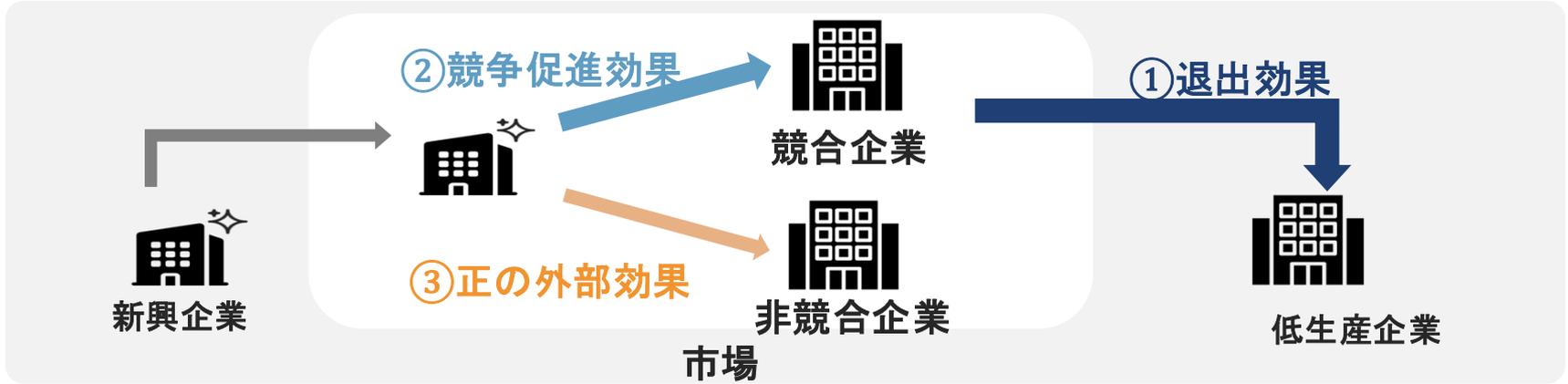
OUTLIERの第2の要件

企業固有の異端性を発揮し、投資家の期待に応える
非凡な成長の実現



観点③ マクロ経済

グロース企業はマクロ経済に及ぼす影響が小さい



OUTLIERの第3の要件

新陳代謝や正の外部効果といった波及効果の実現

OUTLIER

グロース企業としての理想の企業像であり、
次世代の日本経済のリーダーとなる企業群



OUTLIERの定義

- ① 高い成長意欲を持つ
- ② 異端性を発揮し非凡な成長を見せる
- ③ 日本経済に波及効果をもたらす



スクリーニング概要

3つの要件に沿う形でスクリーニングを実行

スクリーニング1：成長意欲の保有 (609社→522社) 

- 1-1 成長意欲：MC100億未満
- 1-2 成長意欲：MC100億以上

スクリーニング2：異端性の発揮 (522社→41社) 

- 2-1 ビジネスの異端性
- 2-2 異端性を支えるマネジメント
- 2-3 異端性の弱みをカバー

スクリーニング3：波及効果の実現可能性 (41社→20社) 

- 3-1 スケーラビリティ
- 3-2 業界に対する新陳代謝
- 3-3 優れた人材の輩出

本レポートを通じて

日本経済の次なる成長の柱となりうる企業像の提示

グロース企業が直面する諸課題の分析



第1スクリーニング：成長意欲の保有

グロース企業に必要な成長意欲を保有している企業を選出。

時価総額100億円を境目に、スクリーニング項目を分類。



100億円以下

成長意欲の保有
+ 裁量的費用削減・暗号資産保有の有無



100億円以上

成長意欲の保有 + 機関投資家への対応



第2スクリーニング：異端性の発揮

グロース企業が、投資家の期待を上回る非凡な成長を実現するため
企業の「異端性」に着目

企業の異端性とは

業界規範から戦略的に逸脱し、独自の経営戦略やビジネスモデルを採用している状態

第2スクリーニング：異端性の発揮

異端性を企業価値に繋げるための3つの観点で分析



ビジネスの異端性

異端性を会計数値と有報記述内容の両面から測定



異端性を支える マネジメント

異端性による長期的な価値創造を支える経営陣を評価



異端性の弱みを カバー

ガバナンスとディスクロージャーにより異端性の弱みをカバーしている企業を評価



第3スクリーニング：波及効果の実現可能性

新興企業の市場参入による波及効果を
新陳代謝と人材輩出という形でスクリーニング化



スケーラビリティ

波及効果の前提となるスケーラビリティを
TAMの大きさ、実現可能性から測定



業界に対する
新陳代謝

他社との競争やM&Aを通じて市場の新陳
代謝を促進しているかを測定



次世代人材の輩出

起業に必要なスキルやネットワーク構築
ができるかを測定



ポートフォリオ決定

スクリーニングの結果、20銘柄への投資を決定。
ビジネスの異端性のスコアに基づいて投資配分を決定。

投資銘柄決定

- トライアルHD (2.49%)
- FRONTEO (5.19%)
- タイミー (5.40%)
- Aiロボティクス (5.68%)
- ビクスタ (5.71%)
- ワンキャリア (4.93%)
- ビザスク (3.26%)
- アイキューブドシステム (5.88%)
- 免疫生物研究所. (4.69%)
- eWeLL (5.96%)
- yutori (3.18%)
- JRC (8.00%)
- クラシコム (4.14%)
- BuySell Technologies (3.11%)
- ブシロード (5.06%)
- GENDA (5.19%)
- INFORICH (4.99%)
- AViC (6.66%)
- プログリッド (5.44%)

OUTLIERにより構築されたポートフォリオは、TOPIXおよびグロース市場指数を大幅に上回る投資リターンを実現。





スクリーニングの裏付けとして、
3社と東京証券取引所へインタビューを実施

インタビュー実施企業

- 東京証券取引所様
- 株式会社 genda様
- 株式会社 yutori様
- 株式会社 トライアルホールディングス様

3社は長期的な視点で投資を行い自社の強みを継続的に伸ばしていた。
選出した企業が**理想のグロース企業像と合致**していることを確認

受賞コメント

ご清聴、ありがとうございました。